

2023 年度 活動方針

●はじめに

2023 年度は世代交代元年と位置付け、ニューコーダイ創造活動の大きな目的の一つである 70 歳前後の次世代にスムーズなバトンタッチを行い、次世代のメンバーが中心となって、コーダイ運営を行うような体制にします。そして、目に見える形でニューコーダイ創造活動の成果を感じていただける年に致します。

同時に 65 歳前後の人々にも積極的にコーダイ運営に関与していただき、いろいろな経験を積みながら、その次の世代として活躍出来るような人材養成、人材発掘も進めていきます。

このことを実現させるためには CD、スタッフが一丸となって取り組む必要があります、皆のベクトルがあって初めて実現出来ることです。今、コーダイ関係者の行動が問われています。皆でコーダイの底力を十二分に発揮しましょう。

ここ数年コロナで翻弄されてきましたが、本当の意味でこれからは With コロナです。With コロナ下での学習システムの在り方も含めて、まだまだ改革することは沢山あります。本年度はコーダイ 15 周年でもあり、いろいろな面で新たな挑戦を行いながら、皆さんと一緒に明るい未来が輝くコーダイ構築を目指していきたくて思っております。是非とも、今まで以上にご協力・ご支援を賜りますようよろしくお願い致します。

●基調方針

1. 2023 年度は「世代交代元年」と位置付け、70 歳前後の幹部が中心となってコーダイ運営に携わるとともに、その次の世代である 65 歳前後の人材発掘及び人材養成に力を入れていきます。
2. 「部門制からグループ制」に改め、より組織のフラット化・組織の簡素化や活動しやすい体制に致します。(共に学び、共に楽しむ ➡ 共に考え、共に活動する)
3. 受講生、CD、スタッフ等コーダイ関係者の質を高め、コーダイの品位を上げ、より誇れるコーダイを目指し続けます。そして、コーダイの考え方・方針をスタッフから CD に、CD から受講生にしっかりと伝えられる施策を取ります。
4. コーダイの中核である学習グループを強化するとともに、それを支える各グループを含め各々の活動を活性化させ、「誇れるコーダイ」、「好きやねん！コーダイ」と言われるように、ニューコーダイ創造活動の成果を「目に見える形」で仕上げていきます。
5. 昨年度に引き続き CD が活動しやすい環境創りを推進し続けます。今期は CD 経験の浅い CD のサポート、緊急時対応の分野別 CD 代行要員登録システムの構築、曜日 CD 会議の見直しやハラスメント対応窓口設置など積極的に対応していきます。

6. 教科研究グループは引き続き科目の新陳代謝を積極的に推進し、受講生の興味を掻き立てるような科目開発、コーダイ公開講座の再検証等を通して学習グループと協働でコーダイ学習システムの改革を推進致します。
7. 事業グループは次のことに注力します。
 - *事業推進は事業の見直しを行い、効率の良い事業を組立てる。
 - *子ども事業は活動内容を検証し、新たなテーマにも取り組み、幅広く活動出来るように検討致します。
 - *ファンドは寄附金を増やせる仕組みを構築する。同時に寄附金の活用システムを構築し、入りと出の予算と実施内容の精度を上げ、予算分配も予め明確化します。
8. 情報管理グループはデジタル推進プロジェクトを統括し、グループ間及びコーダイ全般にわたる業務効率化を目指したデジタル化を推進します。
9. デジタル化・業務の分担・協働活動等に工夫を凝らし、業務の効率化・精度アップを追求しながら「週 max3 日制を推進」し、各担当者の時間的余裕度を上げボランティアと自己活動の時間的バランスを取り易くします。
10. コーダイの顔である広報は今まで以上に愛称コーダイを世の中に浸透させ、コーダイの認知度を高める施策を遂行し、その結果を数値化等で目に見える形に努めます。
11. 総務グループは引き続き財務システムの強化を推進し、各グループの経費管理を指導、サポートします。事務局は資料・設備管理・組織全般にわたる各種規定の作成・渉外等について各グループを指導しながらスムーズな運用に努めます。
12. コーダイブレンは理事長直轄とし、各グループの側面支援及び各グループでは困難なコーダイ全般にわたる課題対応活動を行います。
13. 「コーダイのビッグイベントの在り方」を検証し、皆が参加し易い楽しいイベントに致します。同時にコーダイ 15 周年記念もコーダイ関係者が一緒になって祝えるように致します。

コーダイが名実ともにリーダーとしての強い自覚とその地位を確立するためには、コーダイ関係者のベクトルをもっと強固に合わせる必要があります。決して傍観者であってはなりません。コーダイの方針をよく理解し「今、何を求められ、何をすべきか」を絶えず念頭に置き、皆が協調しながら活動する必要があります。

●学習グループ

はじめに

コロナ禍を経験して、行動・思考等の社会環境が大きく変化しました。

こうした時代の流れに即し、新しい考え方や手法を取り入れ「ニューコーダイ創造」活動に積極的に取り組んでいかねば、受講生の皆さんに魅力あるコーダイ像を提供することは出来ません。

堅持すべきもの（コーダイ理念・目的）と変えるべきもの（方法・手段等）を明確にし、

今年は「拙速は巧遅に如かず」の精神で改革・改善に取り組んでいきます。

<2023 年度目標：改革・改善の優先付けと成果の創出>

1. CD とのコミュニケーション強化及び次世代 CD の発掘
2. 学習事業の見直し（意義・内容・時期・場所など）
3. 社会への参加活動及び支援方法の再構築
4. 次世代学習システム構想の検討

<組織と課題>

1. 曜日担当チーム：CD 支援と受講生満足度の向上
 - ・質向上のための研修の充実とスケジュール化（研修内容の事前明示）
 - ・学期スタート時の個別面談による課題収集と対応
 - ・「学習委員会」は学習主任と曜日担当共同で課題の解決と実行を行う*CD との会議体のあり方
2. 学習運営推進チーム：ニューコーダイ創造
 - ・講座内容・年間カリキュラムの創造（教科研究部門と協同作業）
 - ・IT 技術導入による授業環境の向上及び新しい授業形態の創造
 - ・高大 2 本柱（生涯学習 & 社会への参加活動）の概念の再構築と浸透（社会参加活動支援チームと協同）
3. 学習事業チーム：学習行事の再構築と運営
 - ・入学式； 時期と場所と内容
 - ・フェスタ & 学習成果発表； 時期と場所と内容
 - ・ジョイフルゲームズ； 時期と場所と内容
 - ・社会への参加活動； 既存の参加活動収集と開示（社会参加活動支援チームと協同）
4. 社会参加活動支援チーム
 - ・学習運営推進チーム及び学習事業チームと連携してカリキュラム「社会への参加活動（準備活動を含む）」の内容充実に向けた論議を行い、意義浸透を図る
 - ・活動に必要な情報収集方法を検討し収集した情報を開示する
 - ・支援（褒賞）について検討し参加活動の裾野を拡大する
 - ・褒賞後の活動フォローのあり方も検討する
5. 教務事務チーム
 - ・講師承諾書管理
 - ・CD 関連費用の管理
 - ・経理チームとの連携とフォーマット共有

※各チームは 2023 年度課題に対し、マイルストーンを作成・明示する

●教科研究グループ

教科研究グループに求められているのは、受講を希望される方が「魅力のある科目」で

あると思っただけの科目を提供する事につきます。

現行科目については授業内容を精査し、より良い内容にグレードアップし、興味を持っただけの新科目を創出出来るよう努めます。

それを実現するために、従来の分野別専門部会活動に加え、本年度は新科目の構築方法の見直しと、講師の発掘への取り組みを行います。

1. 分野別専門部会で現状科目の課題を抽出し改善策を作ります。
 - ・ 昨年のクラスアンケートの読込を行い、カリキュラムの改善に繋がります。
 - ・ 今後もクラスアンケートを継続して実施します。
2. 新科目提案制度の見直しを行います。
 - ・ 魅力的な科目提案については検討し教科に作り上げる仕組みを検討します。
3. コーダイの宝である講師の方々のリスト整備（講師人財バンク）を行います。
 - ・ 講座内容、講師候補等について組織として相談出来る仕組み作りを進めます。
4. 大学・教育期間との連携（公開講座・講師紹介）関係構築を行います。
 - ・ 大阪公立大学との連携も継続出来るように努めます。
5. コーダイを世間の方にもっと知っていただく機会として市民公開講座を行います。
合わせて現行のコーダイ生に対しても興味を持っただけの内容として、参加を募ります。
 - ・ 幅広い分野にわたり興味を持っただけの内容と致します。
6. 学習グループの学習運営推進チームと連携して、授業終了後の教室を利用した受講生対象としたイベント実施を検討します。
7. 業務の効率化の推進を行います。
 - ・ 書類による回覧のデジタル化を図ります。
 - ・ 情報を個人管理から集中管理に移行を進めます。
8. 新科目構築プロジェクトを発足致します。

●事業グループ

事業推進・子ども事業・ファンド・校友会の4チームが相互の連携を図りながら、コーダイ生の皆さんの楽しみや生きがい作り及びコーダイの地域貢献活動の充実に向け活動致します。

<事業推進チーム>

学びと仲間づくりのコーダイにおいて、全ての受講生の皆さんがクラスの枠を超えて気軽に参加できる、そして、喜んでいただける場の提供を考えていきます。

これからはますます元気で楽しく過ごしていただける一助としての、救命措置講習・特殊詐欺被害防止対策講習は一人でも多くの参加が可能な方法で継続致します。

多くの受講生が楽しみにされている音楽会の開催もコーダイグループ全体の枠組みの中で引き続き実施を考えます。

兵庫県養父市との学習事業連携の充実へ向けた具体策については、担当者の相互訪問を開始し、その具体的な内容を話し合いたいと考えております。養父市郊外での棚田1日体験ツアーの数年振りの復活も計画します。

更に、学習することに重点をおいたイベントをグループ制になったことを機に、新たに模索していくことも大きな目標であります。

いずれの企画においても、コーダイ生の皆さんの声を反映したものであることを今期の大きなテーマと位置付けております。

コーダイとしての地域貢献活動においては、以前行っていた大阪の伝統文化支援の再開に向け、その対象の選定活動に入ります。

そして、地域支援においては地道で継続的な実施を目指し具体策を検討致します。

<子ども事業チーム>

子ども科学実験を通しての各教室の開講は各方面からの高い評価を得ており、引き続きこの伝統を守っていく必要があると考えます。

子供たちの楽しみ、そして、保護者の期待に応えることを念頭におきます。

新たなテーマへの取り組みを含めた活動内容の検討も同時に進めます。

<ファンドチーム>

寄附金の用途を明確にし、それに見合った寄附金募集をすることを基本にします。

用途については、事業グループ全体での連携の基に、多くの賛同を得られる計画作りを目指します。

寄附金を増やすための仕組み・寄附金活用システムそれぞれの構築を考えます。

明確な予算化が目標です。

<校友会連絡チーム>

コーダイ卒業生・現受講生の皆さんが各地域で構成された8つの同窓会に所属して、現在活動をしています。コーダイの一員として各行事に参加し、また、地域への貢献活動を行うための仕組みを作っていきます。

●情報管理グループ

<情報管理チーム>

1. 募集データの集計システムを通して新受講生へ合格通知の発送、入金管理にて受講決定後、入学案内など発送し受講生名簿・名札・受講生台帳など入学準備の体制づくりを行います。
2. 受講生・講師・スタッフのデータベース化を推進し個人情報の管理運営に努めます。
3. ホームページでは募集要項・応募状況をリアルタイムに掲載発信し、申込フォームからの申込は1,000件以上を目指します。
4. 受講生台帳の集計管理と出席簿の学期単位のデータベース化、並びに修了証書の発行を行います。
5. 事務所内ネットワークシステムとパソコンなどの機器の保守管理。

<デジタル推進チーム>

1. ホームページのリニューアルを行います。(デジタル推進プロジェクト)
2. HP のスタッフサイトの活用
3. パソコン・スマホのスキルアップ講座を実施します。
4. オンラインシステムの理解度を高めることを目的に他グループと協働し、スキルアップを図ります。
5. SNS (Facebook・Twitter・Line など) の会員登録数の増加を図ります。
6. 各教室 Wi-Fi 使用可能に

<デジタル推進プロジェクト>

1. 教務事務と経理間のフォーマット統一、ミスの防止・制度アップを図る
2. イベント参加料等の支払いシステムの電子化 NET コンビニ払い等
3. 出席簿・講座実施報告書・講師承諾書・交通費等のデジタル化による効率アップ
4. パソコン・スマホ研修会 (外部講師)

●広報グループ

広報グループはコーダイの認知度を高めるための活動をメインに、愛称コーダイを浸透させる施策を遂行します。

<広報ツール>

1. 広報誌「れいんぼー」「学校案内」「募集案内」等、紙媒体を発行するにあたっては、それがコーダイの認知度アップに繋がっているのか、読者が必要としている情報が提供されているのかを考察し、コンテンツの見直し・レイアウトの刷新・ページネーションの再考等を行い、内容のレベルアップを図ります。そのためにも、CD や受講生との関係を密にして、確かな情報収集を行います。
2. 「チラシ」「封筒」「名刺」等コーダイが発行するものに関しては、フォーマットを統一します。

<パブリシティ>

1. メディアとの協力体制を強化し、ラジオや新聞掲載などへの露出を増やします。また、ラジオ出演や新聞掲載の予告を「コーダイ通信」で、定期的に HP や SNS 等にアップすることにより、コーダイの知名度アップを図ります。
2. 効果的なプレスリリースの配信を行うために、配信先を見直し新規メディアを開拓し、FAX での配信だけではなく、SNS を駆使しての配信を進めます。

<HP・SNS 活用>

1. コーダイを認知してもらうための最大ツールである HP を見直し、見やすくわかりやすく親しみのあるものにして、イメージアップを図ります。SNS に関しては、まずは受講生全員のコーダイカフェへの登録を促進します。
2. メルマガに関しては、コンテンツを見直し、登録者数の増加を目指します。

●総務グループ

世代交代元年の位置づけから①次世代へのスムーズなバトンタッチ②「部門制からグループ制」への変更など組織運営が大きく変わります。「ニューコーダイ創造」の実現に向け、一丸となって取り組むことが必要です。

そのため、各グループから頼られる「裏方」としてともに考え、ともに活動することにチャレンジします。

具体的には 2023 年度は講座 59 科目を 8 教室(教育会館・東館、社会福社会館、住之江、助産師会館、寺田町、長居ユースホステル、YUSHU ホール、大阪歴史博物館)で、より良い受講環境の改善計画を立てます。

また、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、受講生の皆さんがコーダイ生活を楽しんでいただけるように更に、「安心」「安全」を最優先に考え、全校でコーダイ関係者(講師・スタッフ・CD・受講生・OB・出入り業者等)の感染予防対策を徹底します。

一方、経理チームにおいては、各グループ部門における自部門の経費管理が出来るように取り組んでいきます。

事務局チームは資料・設備管理・組織全般にわたる各種規定の作成、渉外等について各グループを指導しながらスムーズな運用に努めます。

更に、引き続き地球環境問題への取り組み、印刷物削減に寄与するため、数値管理の見える化に取り組めます。

<経理チーム>

諸物価高騰の折から受講料を値上げする事態に陥らないように、日々経費節減に各グループ・スタッフ・CD と共に取り組んでいきます。

また、各 CD 申請処理簡素化のため、前年度から取り組んでいます「支払申請書・他様式」の統一周知を進めます。

本年度、10 月から施行されますインボイス制度導入に向けて対処方法を確定し、各グループ・スタッフ・CD に周知徹底を図るためルール化を図ります。

なお、周知については「LINEWORKS 掲示板」を活用します。

<事務局チーム>

・新型コロナウイルスが日本に感染して 4 年目を迎えます。政府方針で現状の「2 類相当」から「5 類」に引き下げられますが、感染される方がいなくなった訳ではなく、高齢者の方が重症化する確率が高いままです。コーダイとしては政府方針並びに大阪府方針を参考にし、感染状況に応じて都度コロナ対策委員会を開催し、対策を検討・実施し、可能な限り授業が継続出来るよう努めます。

・コーダイとして常に授業内容に応じた環境で受講いただけるように教室探しを行っております。しかし、中々条件の合う施設は見つからないのが現状です。幸いにも今年度は音楽関係で YUSHU ホール、運動関係で長居ユースホステルを使用出来る事になりました。今後も引き続きまして科目に合った教室探しを行います。

・昨年 11 月 29 日に発表されましたように、2 年後に大阪市教育会館の新会館が完成しま

す。それに伴って、旧なにわのみやホテルに会議室が新設されます。この2年間は現在の教室の一部を段階的に使用するところと新設される旧なにわのみやホテルの会議室を併用して使用する事になります。教育会館と密接に連絡をとりながら授業に支障のないように致します。

- ・南海トラフ等の地震のみならず大雨、大雪等災害の危機が増しており、ニュースで何十年に一度という文字を見ない年はないようになりました。以前にもまして防災の意識を持つことが必要です。従来型の避難訓練だけではなく、危機を察知して個人として判断し行動していただけるような防災活動を検討していきます。

●募集委員会活動

コーダイに通われた方・コーダイに興味を持たれた方・それぞれの皆さんに、講座改革委員会で決定した2024年度の講座内容等を解り易く説明することを活動の基本とします。

1. 活動に当たってはその役割内容に応じたチームを編成し、メンバーの情報共有化を重視します。
2. 募集開始から締切りまで及び締切り後2次募集に至る日程について検証します。
3. 講座説明会の会場とその日程、更には説明員による相談対応の在り方をこれまでの実績を検証しながら慎重に決定します。

オープンキャンパス（授業見学）は、説明会との一体化を軸に再検討します。

4. 募集案内について、受講生・CD・講師等の声を聴き内容を工夫します。
作成時期については、自治体への広報依頼・配布予定先等を勘案して決めます。
5. 新人確保を応募者の4割とする目標を設定し、その対策をコーダイ全体で考えます。
6. 広報を積極的に行います。

HP・LINE等、マスコミの活用、連携先・支援団体への依頼。
公開講座、各イベント会場でのPR活動等。